

横川右俣

上

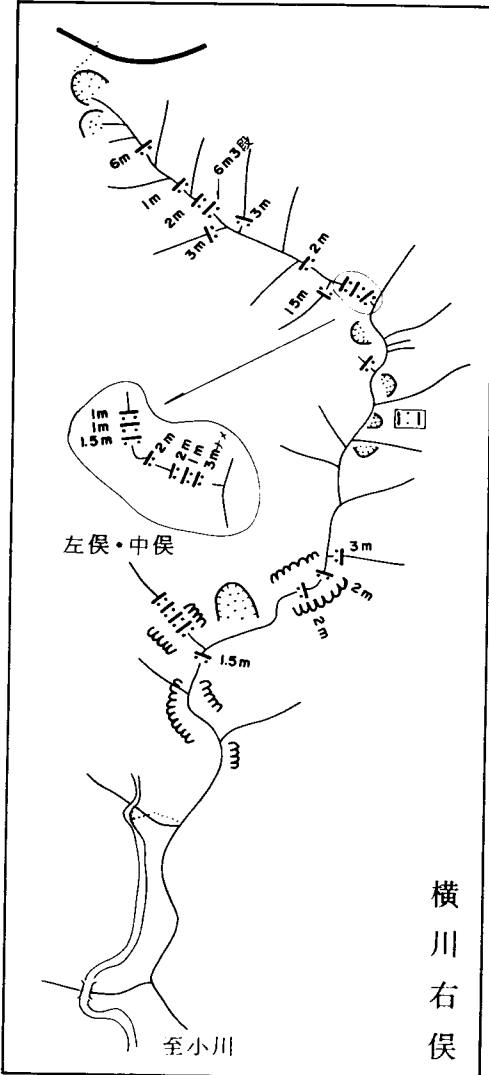
一九八一年七月一九日

林道終点まで車をいれる。踏跡をたどり、すぐの支沢を下降して本流に出る。八時一〇分、遡行開始。少し遡るとゴルジュが出てきた。

めんとしている所を通り、ゴルジュに入る。ここでもイワナを見た。この小滝二箇が魚止めになっている

ようである。
この先は平凡な河原状となる。一時間程続く。やがて二俣。本流の方が左へ直角に曲がっていて、滝がかかっている。一見すると、右が本流らしく見えるので、要注意。
連続する小滝を越える。水量もめつきり減ってきた。支沢がいくつも

ここでイワナをみた。二〇センチ級。その先すぐに二俣となる。左俣には一五匹の雄大な滝がかかっている。我々は右俣にルートをとる。
右岸の土砂が崩れて沢を今にも埋



横川 右俣

合流する。

最後の二俣を

左に入り、六時の滝を越える。

水が濁れる前に

昼食をとり、尾

根めざしてヤブ

をこぐ。尾根に

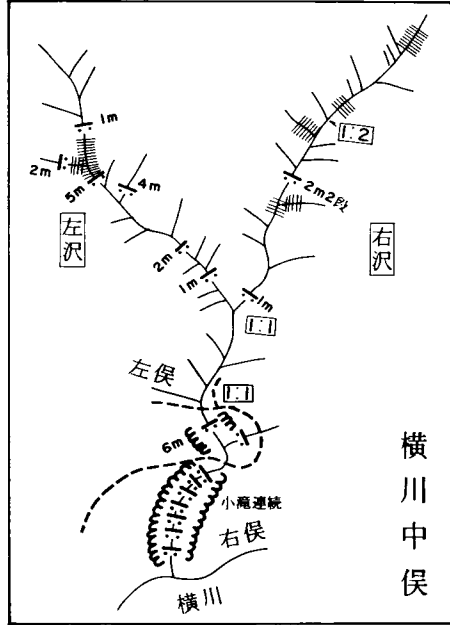
はかすかな踏跡

が見られた。

(記・ハ)

「タイム」 林道終点(八〇〇)↓横

川出合(八二〇)↓沢終了(二一



横川中俣右沢

し

一九八五年一〇月二〇日

一 三号国道から横川ぞいの道路に
車を進める。しばらく行くと、民家

が二〜三戸ある。今は廃村となつて
しまった東横川部落の名残である。

そこから先に進むと、林道のゲートとなる。少し手前に車をデポして林道を歩くことにする。

林道を歩くこと三〇分で、横川の出合に着く。沢ぞいにこのあたりにも釣人の足跡が見られる。

右俣出合を過ぎたあたりからゴルジュとなる。捲き道があると聞いてきたのだが、みつからない。帰りにわかったことであるが、捲き道は、かなり手前から分かれて、右岸のとなでもない高い場所を通っていた。

ゴルジュを突破するのには、濡れるしかない。季節も季節であり、高捲きしたところ、一〇〇以上の大からきついアルバイトを強いられたものである。夏なら、おもしろいゴルジュのようである。

ようやく中俣出合である。苦勞し